

闘論

小沢氏 変わったか

「私が変わる」と宣言した小沢一郎氏(64)が、民主党代表に就任して1年が過ぎた。かつては政党を作っては解体し、「壊し屋」とも呼ばれた。「政治生命をかけた決戦」と位置づける参院選を3カ月後に控え、同党の論客2人に、「変身宣言その後」の小沢氏に対する評価と注文を聞いた。

変わらないのが魅力

小沢さんは今、若干遠慮しているところがある。いろんな立場の人が党内にいる。「団結が力」でなければいけないことは、小沢さんも十分分かっている。それを考えて、自分はちょっと引かなければいけない、意見丸出しではいけないと思っている。代表になってからの小沢さんの行動を見ていると、引いている。

小沢さんは主張しない、と世間から言われるが、本当は主張がある。けれども、私が仕えた、例えば自由党の時には、それをもろに言えた。今はそうではなく、とりあえずはまとまることが大事だから、おおむねうちの党の真ん中はどこになるのか、というふうに見る努力をしている。民主党が自民党と完全に対抗する勢力になるには、団結しかないと考えている。そういう意味では、小沢さんは変わった。

それは、やはり夏の参院選を「いよいよ最後だ」と思っているからだ。小沢さんは今、締めくくりをしている。「私は政治生命をかけます」ということを常に言っている。あの人はちゃらんぼらんなことは言わない。明らかに、これで敗れるようならば自分の政治生活は一つの区切りをつけなくてはならない、という気持ちでいる。

今までのやり方貫け

ただ、いったんこうと決めた時の小沢さんは絶対に譲らない。ぶれないところは本当に稀有の人だ。誰が何と言っても平気。これは間違いない。今だって、心の内は何にも変わっていない。表に出すか出さないかが変わっただけで、心の中が変わったらおかしい。

私はよく若い政治家に「いつでも、どこでも、だれにも同じことを言え。そうすれば必ず摩擦は起きる。それが良いんだ」と言う。私は小沢さんを鏡にして、そう言っている。小沢さんの本質はそこだと思う。

その意味で小沢さんは変わっていない。小沢さんの魅力は変わらないことだ。

夏の参院選でも、無党派層に浸透する努力は重要だが、小泉純一郎前首相のようなお芝居をするのはおかしい。安倍晋三首相も小泉さんとは違う。小沢さんが小泉さんのようなことをする必要はない。まして人生 60 年もそれでやってきた人が、目先ちょっと変わったことをするなんてことは、むしろすべきでない。小沢さんはこれまでのやり方を貫いていい。